

は じ め に

日本全国で予測のつかない自然災害が起き、発災時の避難生活も長期化の傾向がみられます。私たち行政管理栄養士は、被災者の健康維持や安心した生活を支援するため、栄養・食生活に係る活動を行います。

災害時の栄養・食生活支援として、避難所等で提供する食事や被災者の健康管理に必要な準備を、関係各課と連携し進めていくことが重要です。一方で、災害は、規模や種類等でマニュアル通りに支援活動できるとも考えられません。また、被災または支援経験のある行政栄養士と経験のない行政栄養士、自治体で少数配置の中、効果的な支援活動が求められています。

そこで、研究班では、これまでの災害で実際に支援した内容をケースとして作成し、そのケースの主人公である行政管理栄養士の立場にたち、自分だったらどういう活動を行っただろうか、災害時にはこんな問題が起きるのだな、解決するには何が必要なのか等、ケースの置かれた状況の中で、どう判断しどう活動するのか、協議しながら検討するための教材集を作成しました。

この教材をもとに、今年度はケースメソッドを用いた演習として、全国 3 会場で約 250 名の方に参加いただき、研修会を開催しました。研修実施後のアンケートでは、演習が参考になった、まあまあ参考になったと回答した方は 99.6% でした。また、管内または所属内で研修をしたいと回答した方は 64% でした。

この教材を用いた演習が、行政管理栄養士の方にとって、災害時の栄養・食生活支援活動をする上で、活動方針を決定するための引き出しの種類を増やすために活用していただければと思います。また、ケースメソッドを用いた演習において、災害時の栄養・食生活支援だけでなく、他の公衆栄養活動にも応用していただくことを期待します。

最後に、ケースメソッドを用いた演習や本教材集の作成にあたり御指導・御助言いただきました女子栄養大学 武見ゆかり教授に心から感謝を申し上げます。

また、貴重な支援活動のケースを作成及び資料提供いただきました研究協力者の皆様に御礼申し上げます。

令和 2 年 3 月

分担研究者 久保 彰子